

AEDが守った 学生の命

近年、普及が進み、街中でも目にする機会が増えたAED(自動体外式除細動器)。父母教育後援会では学生の命を守るため、いち早く66台のAEDを大学に寄贈しています(2008年度)。これをうけて大学もAEDの整備に力を入れ、現在ではキャンパスのどこにいても3分以内に使えるよう、各建物に1台以上のAEDが配置されています。また、運動中に心室細動が起こることも多いため、すべての運動施設や合宿所にも設置され、設置総数106台と、全国の大学でも例のない整備状況となっています。

◎AED豆知識

AED(自動体外式除細動器)とは、心臓が心室細動に陥った時、電気ショックを与えて正常なリズムに戻す助けを行う医療機器です。心室細動とは不整脈の一種で、心臓の血液を全身に送り出す心室がけいれん(細動)し、血液を送り出せなくなった状態(心停止状態)をいいます。心室細動が起こると、脳などの重要な臓器にも血液が行かなくなり、やがて心臓が完全に停止して死亡してしまう、とても危険な状態です。

AEDは2004年から一般市民も使用できるようになり、駅や公共施設、商業施設などを中心に設置されています。心臓発作の場合、心停止してから約3分経過すると生存率は約50%に下がるとされており、救急車が到着するまでの間にAEDを活用すれば、救える命があるのです。



学生の命が
救われました

作田 恭子さん 保健師 増谷 佳子さん 看護師

学生の命を守ったAED と保健センターの迅速な対応

2016年5月の早朝、1回生の男子学生が倒れている、という連絡が保健センターに入りました。保健センターに勤務する作田さんと増谷さんは、どういう状況なのか良くわからない中、設置されていたAEDを持って駆けつけました。

作田 「学生は意識がなかったためすぐにAEDを使用しました。幸い、素早く使用して、2回のショックの後、心臓が動き始めたので安心しました」。

増谷 「人が倒れていると戸惑いAEDを使用するかどうか悩むと思いますが、必要がない場合は機械が判断してくれるので怖がらなくて大丈夫です」。

学生は心停止状態に陥っていましたが、二人の迅速で適切な処置により無事一命を取りとめ、現在は元気に復学しています。

的確な判断によるAEDでの救命活動

中倉さんは駅の近くで、歩いていた外国人男性が倒れてけいれんする事態に遭遇。「周囲の人たちは触らないほうが良いと言いましたが、けいれんがおさまると硬直し始めたので危ないと感じて、近くの銀行にAEDが設置されているのを知っていたので取りに行きました。使用は初めてでしたが、AEDの講習を受けたことがあったので、手順に従って行いました。操作方法は音声ガイドもあるので、講習を受けてなくても怖がらずに使うのが大事だと思います」。AEDの使用で男性は命を取り留め、その後救急車で病院に搬送されました。AEDは中倉さんも言うように、操作方法を音声でガイドしてくれるため、簡単に使用することができます。緊急時には勇気を持って活用してください。



中倉 茜さん
産業社会学部
4回生(取材当時)